

1. 2. 中国古代の衣服については未だ十分な研究がなく、礼記やその他の文献で服制に関する規定はある程度知られるが、実際の服制を知るには充分でない。そこで具体的な服制や衣服形式を知る一方法として画像石をとりあげた。漢武梁祠を中心とする画像石の図が、階級的、職能的にひろがりのある人物群を、彼等の社会的な地位とか生活様式や環境の中で表現しているという特質は、服制史の具体的な資料となり得ると考えたからである。

この画像から直接的に服制を読みとることが必要であると考へて、文献を対照しつつ第一近似的な試みとして服制の実体について考へをすすめた。資料としてはシャパンヌの武梁祠画像石の写真、補いとして石索の図を使用した。

3. 画像石にあらわされた人物の衣服型はある程度古文献と一致するが、領にみるような差異も認められる。画像群の衣服を通していえることは、男女装共に深衣の形式が、その基本型になっていることである。個々の人物間の衣服型の変化は、深衣を基本とした変化であると考えられ、このことから中国古代の衣服の原型を深衣に求めることができると思われる。深衣の構成については従来いくつかの説が出されているが、これらについていま一度検討を加えた結果、形式および裁断についての新しい知見を得ることができた。